



ShareFast サーバ ユーザマニュアル

Stable Release 1.1

東京大学
新領域創成科学研究科
人間環境学専攻
ロジアナカモンサン ピルン
piroon@is.k.u-tokyo.ac.jp

更新履歴

バージョン	更新日	更新内容	更新者
1.0.0	6/30/2006	- 更新履歴を追加 - system.xml の設定を追加	ピルン ロジヤナカモンサン
1.0.1	7/11/2006	- サーバ管理ユーザ、組織管理ユーザの初期設定を追加 - デプロイ時の注意を追加	井上 幸一
1.0.2	8/3/2006	- マニュアルフォーマットを他と統一 - 付録を追加	稗方 和夫
1.1.0	1/23/2007	- Release 1.1 のための更新	ピルン ロジヤナカモンサン

*ピルン ロジヤナカモンサン: piroon@is.k.u-tokyo.ac.jp, 井上 幸一: inoue@is.k.u-tokyo.ac.jp, 稗方 和夫: hiekata@nakl.t.u-tokyo.ac.jp

目次

1. 必要なソフトウェアのインストール.....	4
2. インストールと設定.....	4
2.1 インストール.....	4
2.2 設定.....	7
2.3 Release1.0 から 1.1 へのアップグレード方法.....	7
3. インターフェースと基本操作.....	9
3.1 インターフェース.....	9
3.2 サーバの管理.....	10
3.2.1 Server Management Console ツール.....	10
3.2.2 Organization Administration ツール.....	12
Appendix.....	13
J2SE Development Kit 5.0 のインストール.....	13
Apache Tomcat のインストール.....	16
PostgreSQL のインストール.....	21

1. 必要なソフトウェアのインストール

ShareFast はクライアント・サーバ型のウェブアプリケーションであり、本マニュアルはサーバの構築について説明しています。ShareFast には JDK および Tomcat がインストールされている必要があります。（手順の詳細は附録に収録）

Java Development Kit (JDK) (jdk-1_5_0_06-windows-i586-p.exe):

http://javashopl.m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp?StoreId=22&PartDetailId=jdk-1.5.0_06-oth-JPR&TransactionId=noreg)

Apache Tomcat (apache-tomcat-5.5.16.exe)

<http://www.apache.org/dist/tomcat/tomcat-5/v5.5.16/bin/>

2. インストールと設定

2.1 インストール

1. ShareFast のホームページから sharefast.war をダウンロードしてください。
(<http://www.sharefast.org/>)
2. Tomcat の管理画面を開き、Tomcat Manager を開いてください。
(デフォルトでは <http://localhost:8080/>)

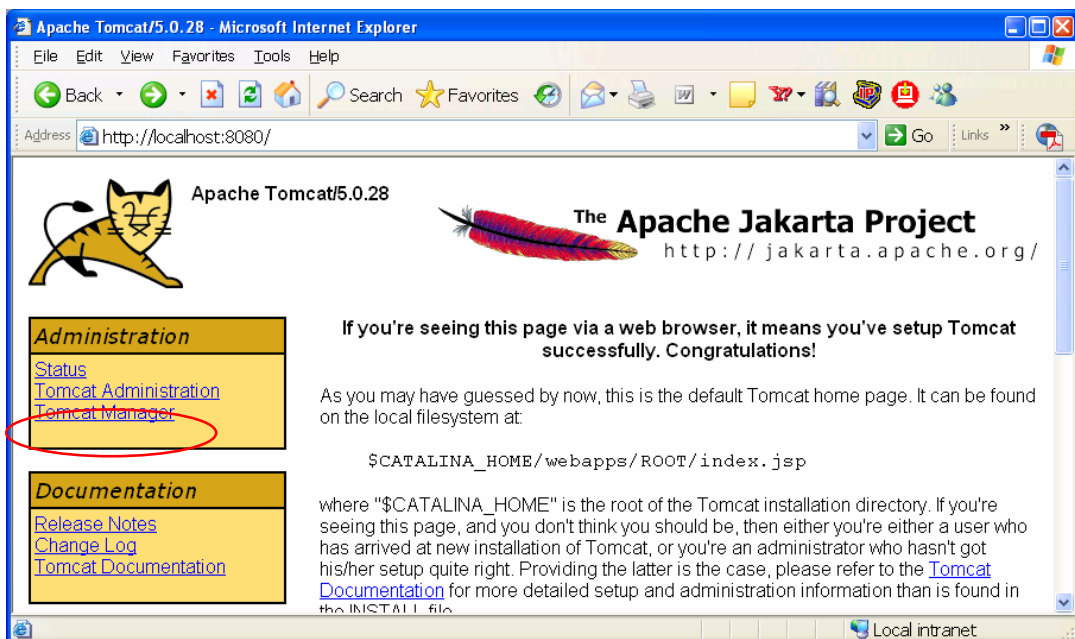


図 1 Apache Tomcat アドミンページ

3. “WAR file to deploy”のセクションで、Browse により sharefast.war を選択し、Deploy (配備) をクリックしてください。
注意 デスクトップなど、日本語の含まれるディレクトリから配備 (Deploy) すると正常に配備できないことがあります。

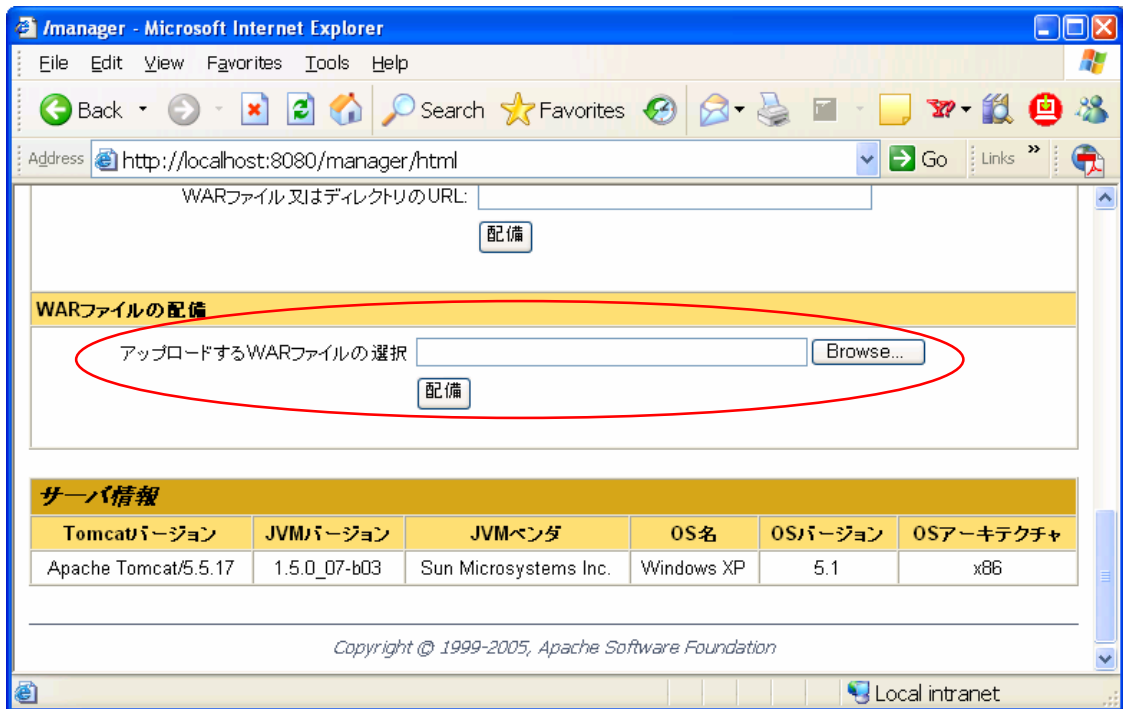


図 2 sharefast.war を配備する

4. 配備すると、sharefast というリンクが見えるようになります。

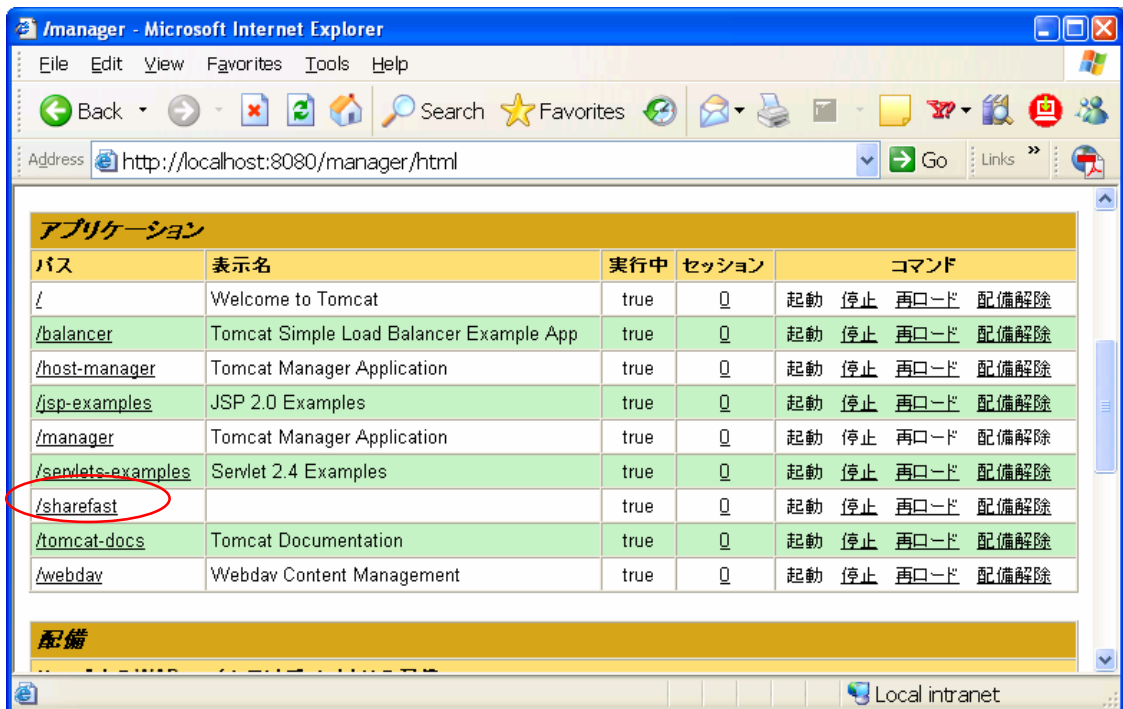


図 3 Sharefast サーバアプリケーション

5. “/sharefast”のリンクをクリックすると,下の画面が見えます。

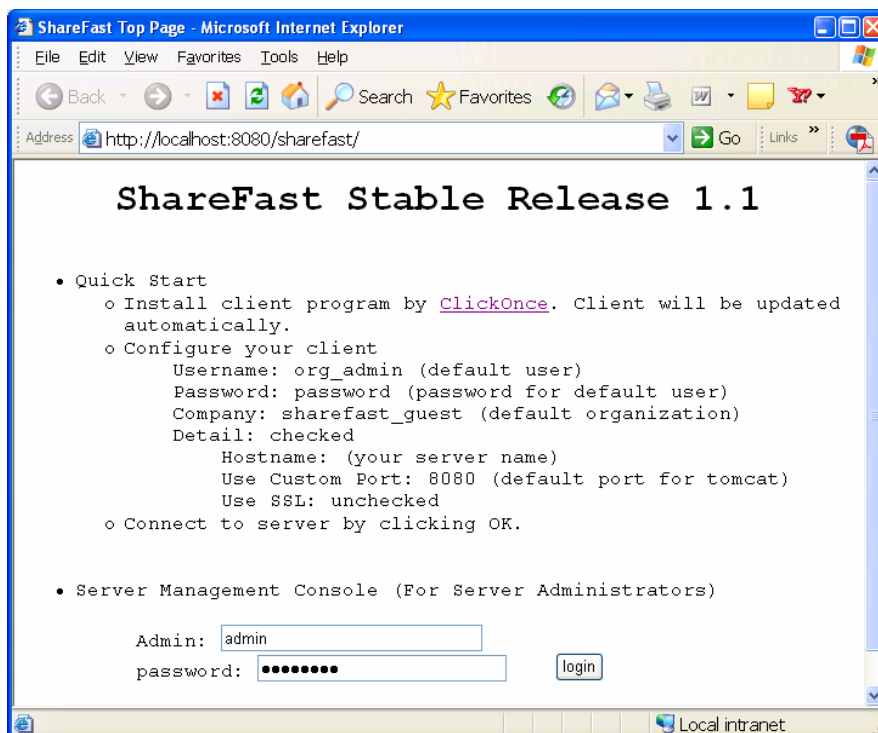


図 4 ShareFast Top Page

2.2 設定

インストールした後に、WEB-INF/conf/にある system.xml を編集することを推奨します。

デフォルトの設定のまま使用した場合、ウェブアプリケーションの配備解除時にワークフローや文書ファイルが削除されてしまいます。配備解除時にこれらのファイルが削除されないようにするには、**<RepositoryPath>WEB-INF/repos/</RepositoryPath>**の **WEB-INF/repos/**を他の場所に変更してください。

(例 : C:\\sharefast\\repos\\) このディレクトリにすべてのデータが保存されます。

system.xml の repos を変更する場合には、WEB-INF/repos の中身から新しいディレクトリまでコピーする必要があります。

(オプション) メタデータを RDB に保存する場合

- postgres server を設定してください。
database server: localhost
user: postgres
password: password
database name: sharefast
*これらの値も system.xml 中で指定されています。
- WEB-INF/conf/system.xml の中にある DatabaseType を postgres に変更してください。
- Tomcat を再起動してください。

2.3 Release1.0 から 1.1 へのアップグレード方法

デフォルトの設定のまま使用した場合、ウェブアプリケーションのアップグレード時にワークフローや文書ファイルが削除されてしまいます。RepositoryPath を変更して運用している場合には、アップグレード時にもこれらのファイルが削除されません。(RepositoryPath の変更方法は 2.2 設定をご覧ください)

1. Tomcat の管理画面を開き、Tomcat Manager を開いてください。
(デフォルトでは <http://localhost:8080/>)

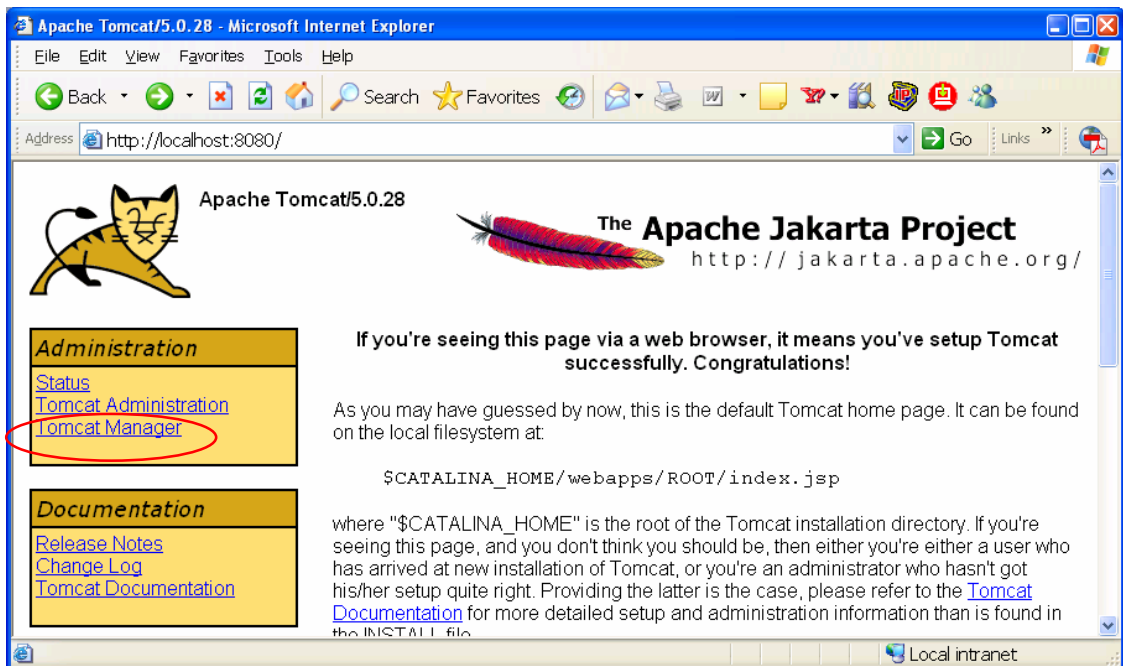


図 5 Apache Tomcat アドミンページ

2. ShareFast の配備解除をクリックしてください。

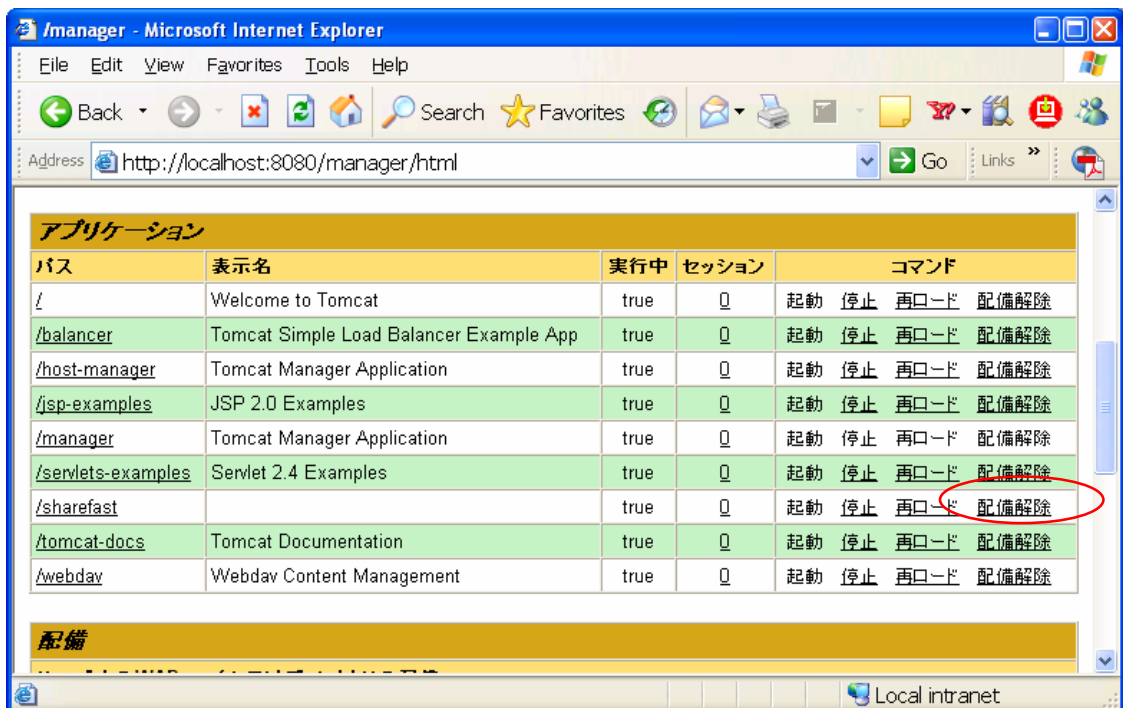
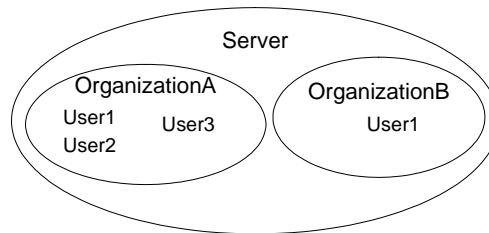


図 6 Sharefast の配備解除

3. Release1.1 のインストールをしてください。

3. インターフェースと基本操作

これから ShareFast のインターフェースと基本操作を説明します。ShareFast は Organization という単位でデータの管理を行います。各 Organization に所属するユーザに対して User アカウントを作成してサーバを利用します。



3.1 インターフェース

下の画面は ShareFast のインターフェースです。

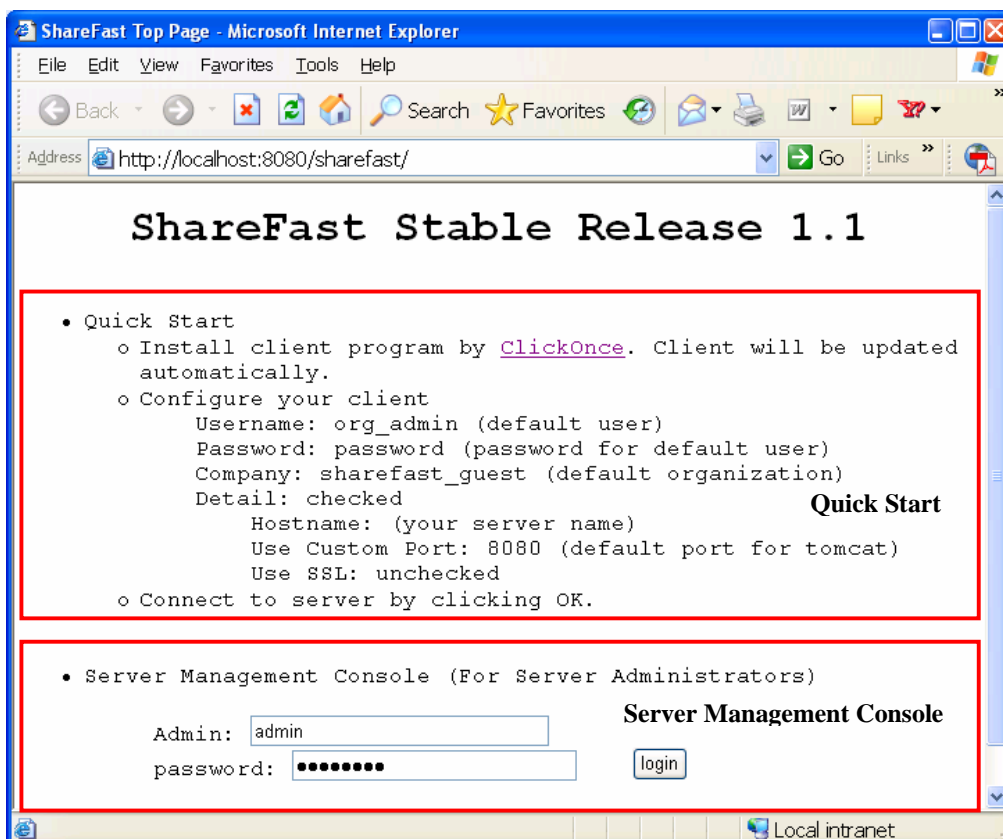


図 7 ShareFast サーバのインターフェース

- 1) Quick Start: ShareFast のクライアントのインストールおよび初期設定の方法について簡単に説明しています。
- 2) Server Management Console: サーバのログ表示、新しい Organization の作成、現在このサーバに存在する Organization のリストと言った、サーバ全体の管理にかかわる機能を提供します。

3.2 サーバの管理

本章では ShareFast のサーバが提供する管理機能について説明します。

3.2.1 Server Management Console ツール

ウェブブラウザで ShareFast サーバ（初期設定のアドレスは `http://サーバ名:8080/sharefast/`）に接続すると、‘Server Management Console’ という管理メニューがあります。サーバ管理を行うには、この管理画面にログインします。初期の管理アカウント名は `admin`、パスワードは `password` です。変更するには `WEB-INF/conf/`にある `system.xml` を直接編集してください。 `<AdminUsername>` と `<AdminPassword>` を変更して Tomcat を再起動すると新しい管理アカウント名とパスワードが有効になります。

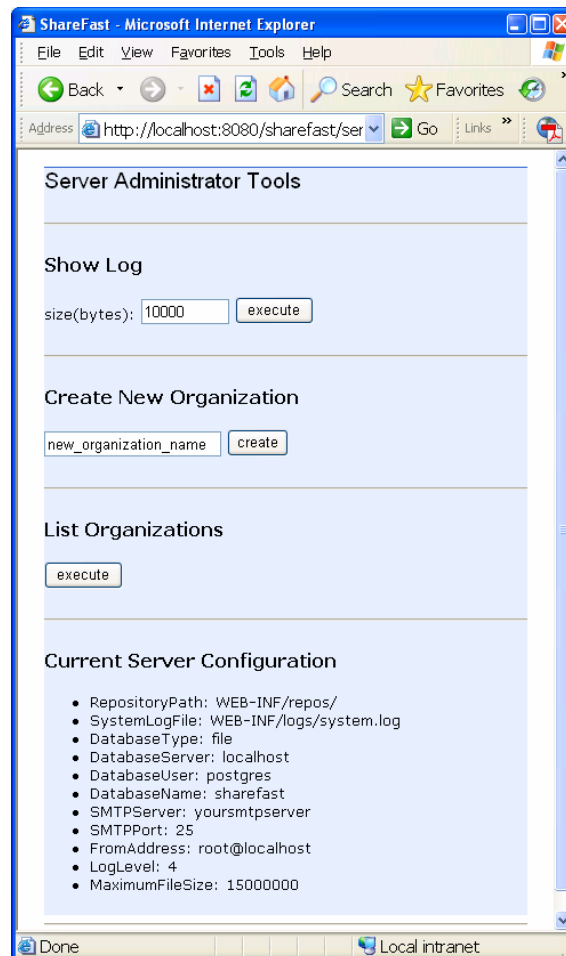


図 8 Server Administrator Tools page

管理画面ではいくつかの管理操作が可能です。‘Show Log’によりサーバ上で発生するシステム上のイベントのログを閲覧できます。‘Create New Organization’では新しい Organization を作成できます。この操作は操作後に Tomcat の再起動が必要です。‘List Organizations’は現在の Organization を確認できます。新しい Organization を作成した場合、この Organization 用に標準で以下の管理アカウントが作成されます。ShareFast クライアントを使ってこのアカウントでログインし、必要なユーザを作成してください。

UserName: org_admin
 Organization: 新しい Organization 名
 Password: password

新しい organization を作った後は、`<WEB-INF/repos¥(organization name)¥conf¥organization-config.xml>`のメールアドレスを変更する必要があります。このメールアドレスは、mailnode と discussion feature で使われます。

3.2.2 Organization Administration ツール

既存の Organization にユーザを追加する場合や、新しく作った Organization について管理を行う場合、このツールが必要になります。ShareFast クライアントに Organization の管理者権限のあるアカウントからログインし、[サーバ]-[ユーザ管理]というメニューを実行すると Organization Administration ツールを利用できます。

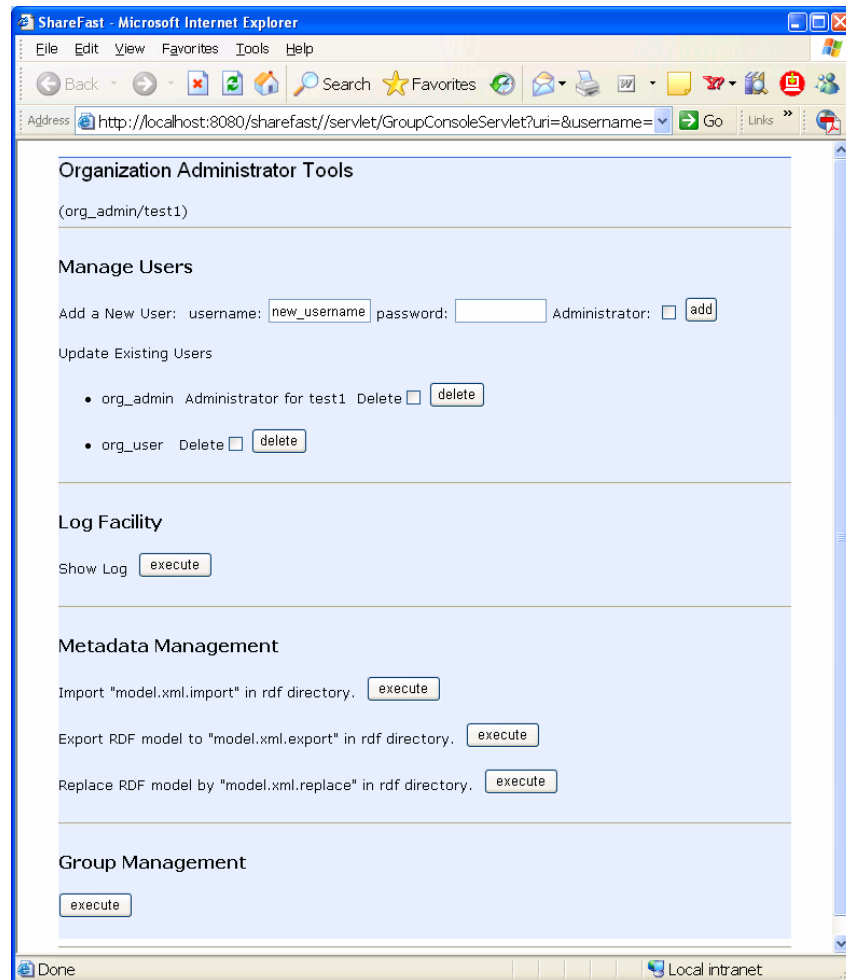


図 9 Organization Administrator ツールの画面

3.2.2.1 Manage Users

ユーザを追加又は更新又は削除する機能です。新しく作成するユーザの名前を username、パスワードを password に入力して add ボタンを入力することで新規ユーザが作成されます。ユーザ名は半角英数字のみと”_”（アンダーバー）のみで作成し、全角文字や半角スペース、記号は使えません。新しく作成するユーザにこの Organization Administrator ツールへのアクセスを許す場合は、Administrator のチェックボックスをチェックしてください。

ユーザを削除するには、ユーザ一覧の Delete のチェックをチェックして、Delete ボタンをクリックしてください。

3.2.2.3 Log Facility

Organization Administrator ツールの Log Facility 部分の execute ボタンをクリックすると、この Organization のユーザの活動に関するログが Organization Administrator ツールの最後尾に表示されます。

3.2.2.3 Metadata Management

この Organization の文書ファイルには、RDF 形式のメタデータが付加されています。メタデータは、RDB を利用していない場合、system.xml で指定した <RepositoryPath>の(organization name)/rdf/ ディレクトリに格納されます。このメニューではトラブル時にこのメタデータを管理する機能を提供します。

[Import]: execute ボタンをクリックすると上記 rdf ディレクトリに置いた model.xml.import という名前のファイル中のメタデータを現在のメタデータに追加します。

[Export]: execute ボタンをクリックすると上記 rdf ディレクトリに置いた model.xml.export という名前のファイルに現在のメタデータを書き出します。

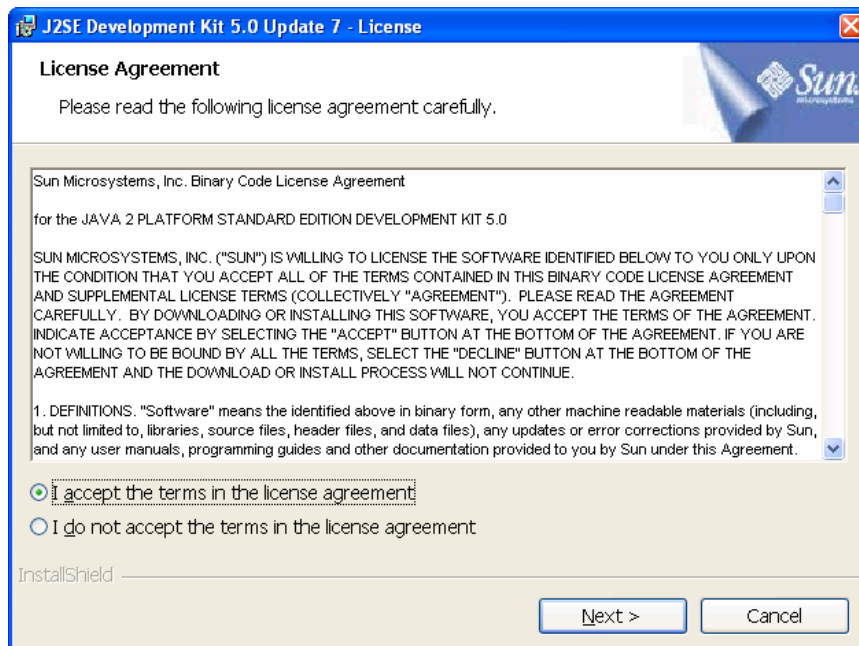
[Replace]: execute ボタンをクリックすると上記 rdf ディレクトリに置いた model.xml.replace という名前のファイルで現在のメタデータを置き換えます。

Appendix

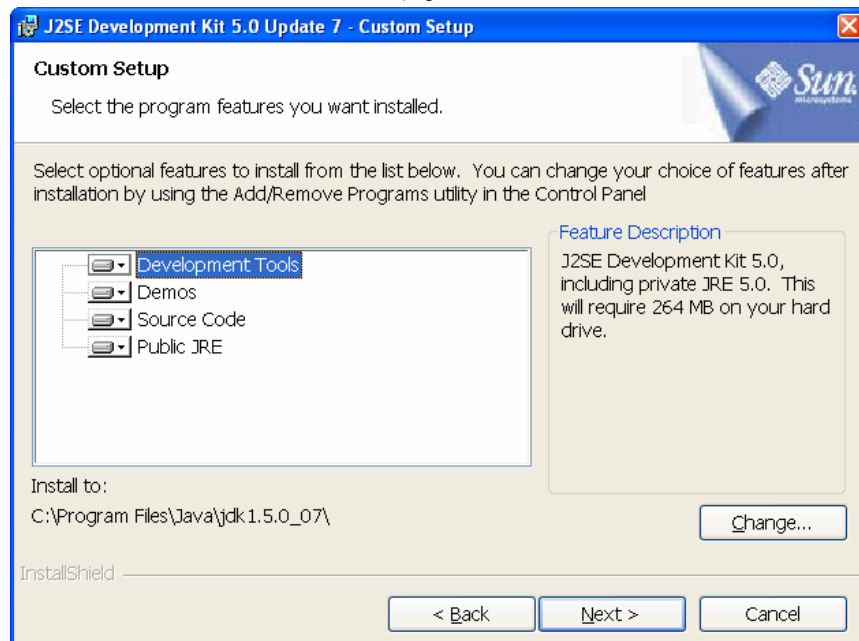
J2SE Development Kit 5.0 のインストール

以下のキャプチャ画面にしたがってインストールを進めてください。

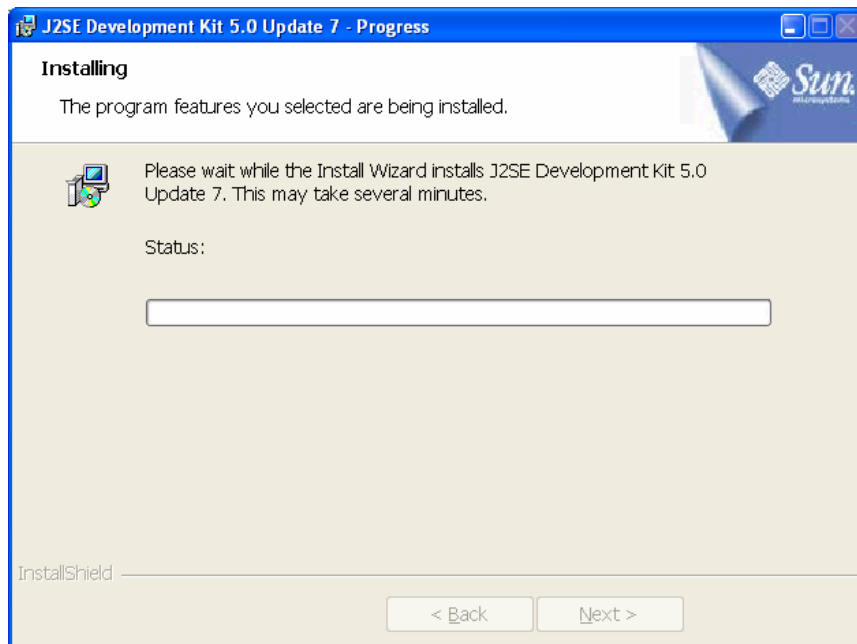
1. インストールファイルをダブルクリックして実行します。
2. License Agreement の accept を選択して Next ボタンをクリックします。



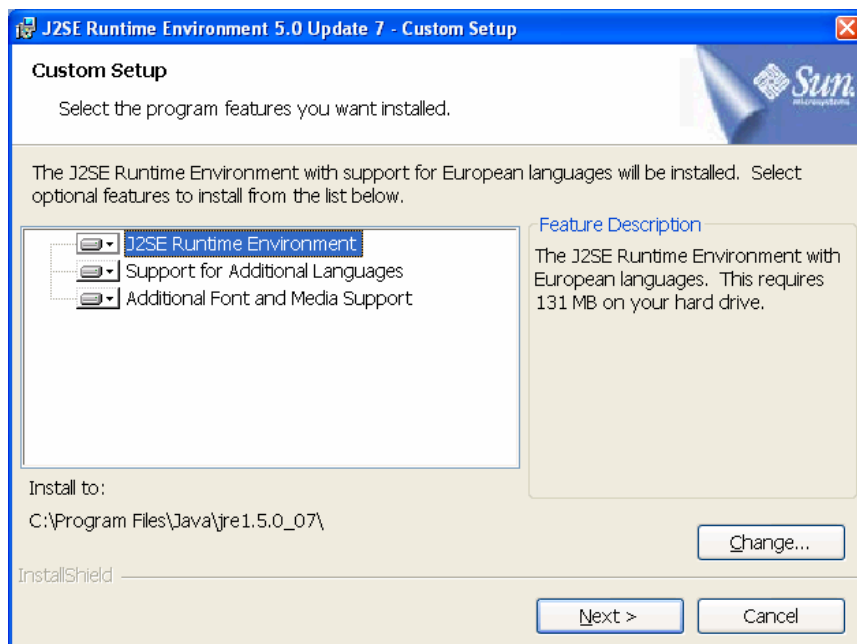
3. 必要なオプションを選択して **Next** ボタンをクリックします。変更する必要がなければデフォルトのまま進めます。



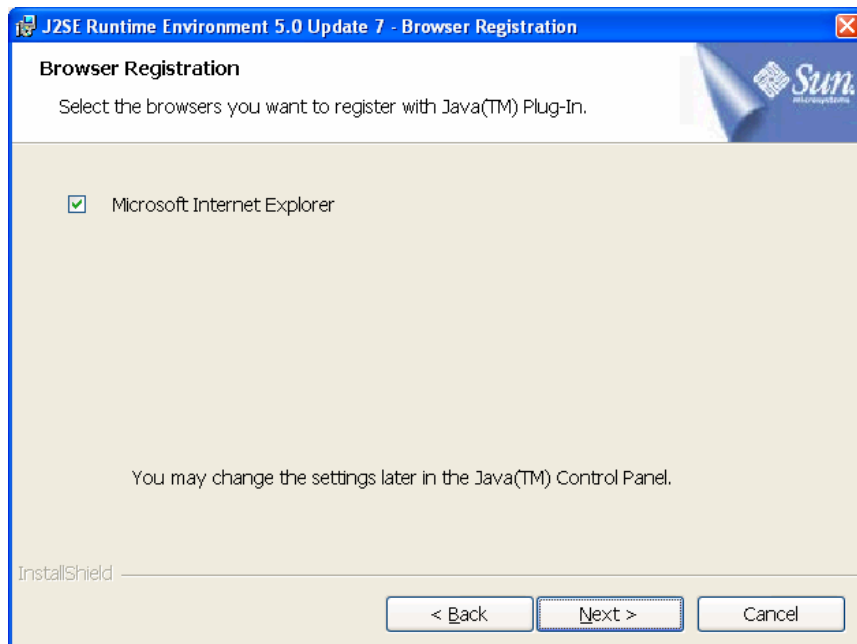
4. しばらく待ちます。



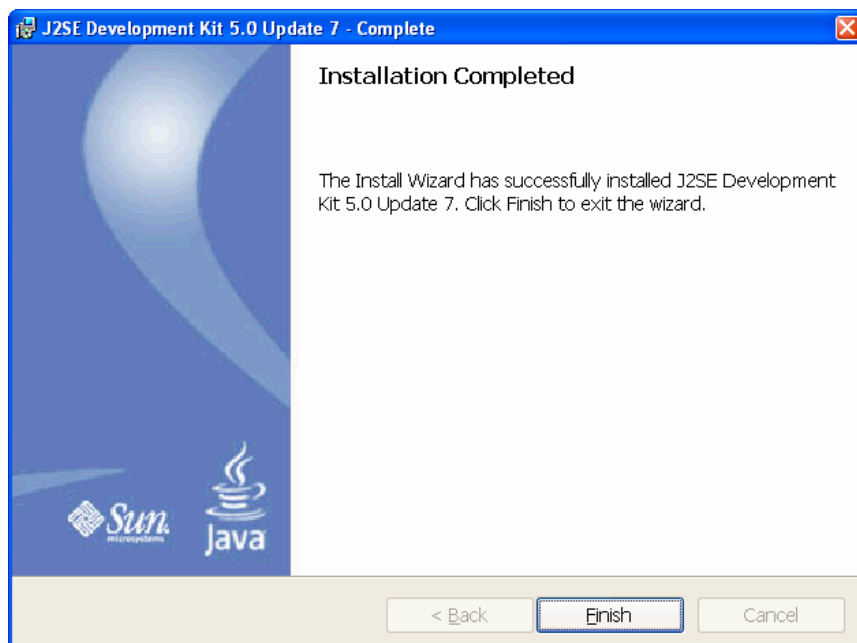
5. オプション機能を選択します。特に必要なければデフォルトのまま Next ボタンをクリックします。



6. Java Plug-In を登録するブラウザを選択して Next ボタンをクリックします。



7. インストール完了です。



Apache Tomcat のインストール

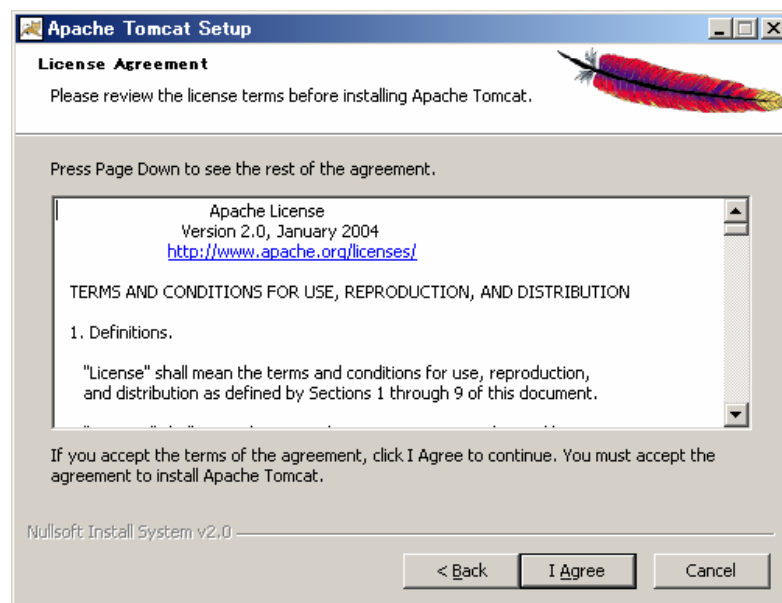
以下のキャプチャ画面にしたがってインストールを進めてください。

1. インストールファイルをダブルクリックして実行します。

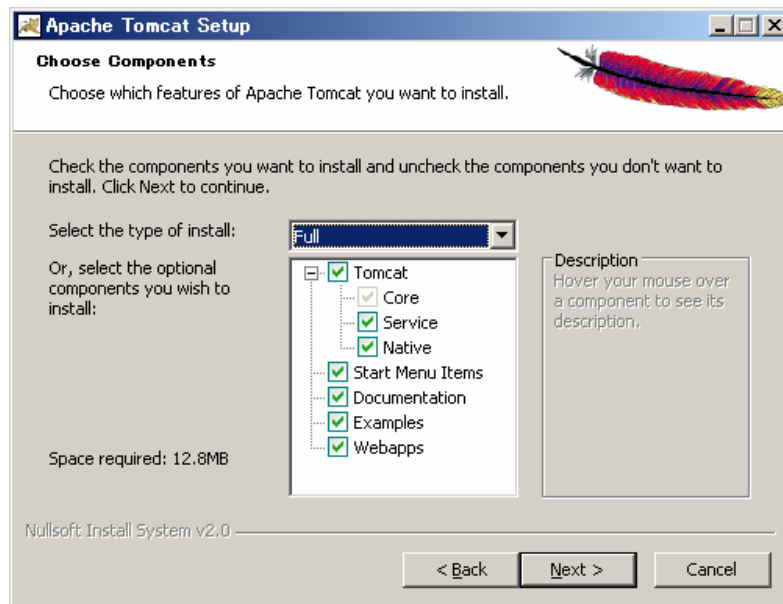
2. インストールが開始します。



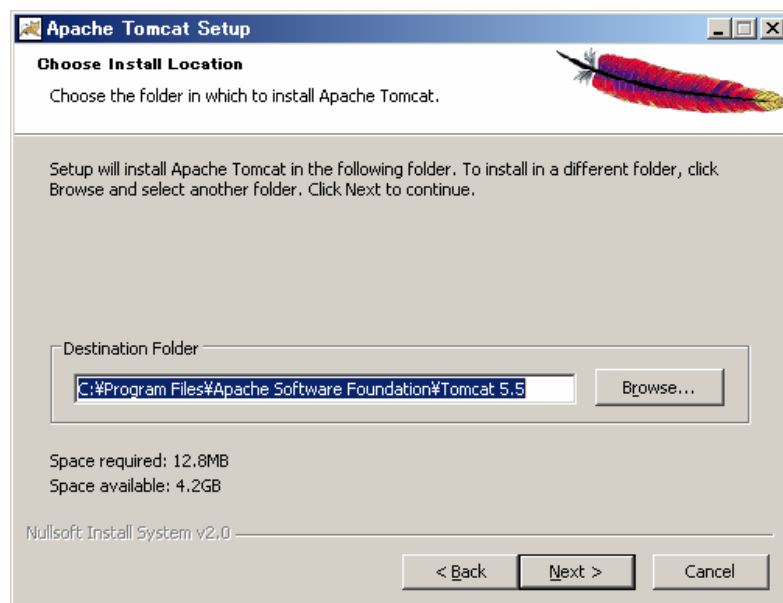
3. License Agreement. に Agree ボタンをクリックします。



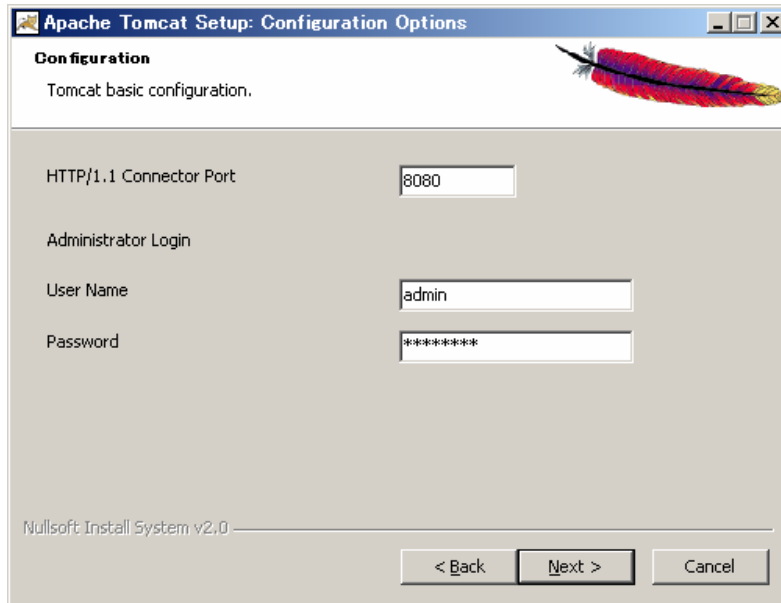
4. インストールしたい機能を選択して Next をクリックします。よくわからない場合は Full を選択してください。



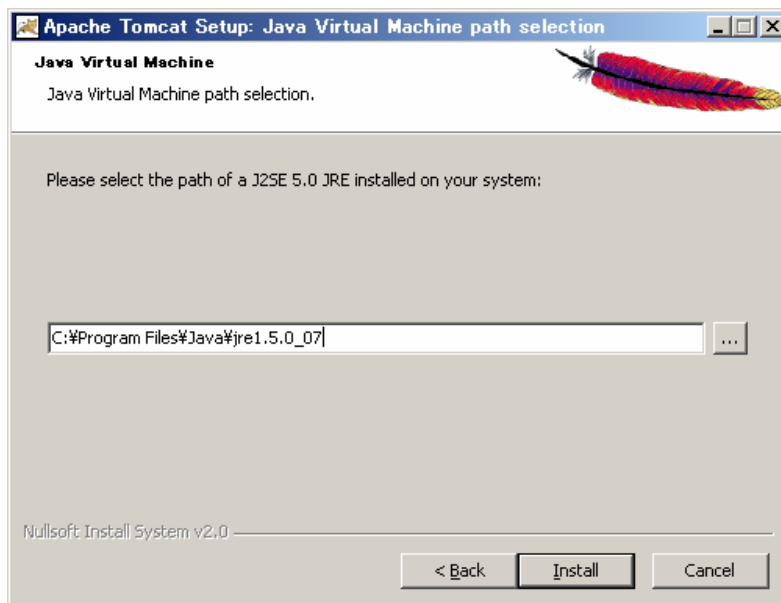
5. インストール先のフォルダを選択して **Next** ボタンをクリックしてください。特に変更する必要がなければデフォルトで進めてください。



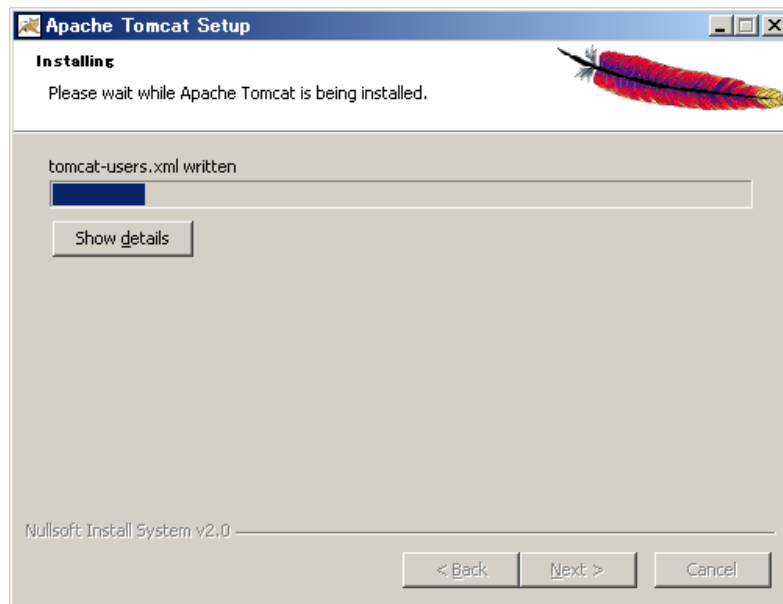
6. 基本構成を行い、**Next** ボタンをクリックしてください。本書では **Port** を 8080、ユーザ名を **admin**、パスワードを **password** として進めます。



7. Java Virtual Machine のパスを設定します。変更する必要がなければデフォルトで進めてください。



8. しばらく待ちます。



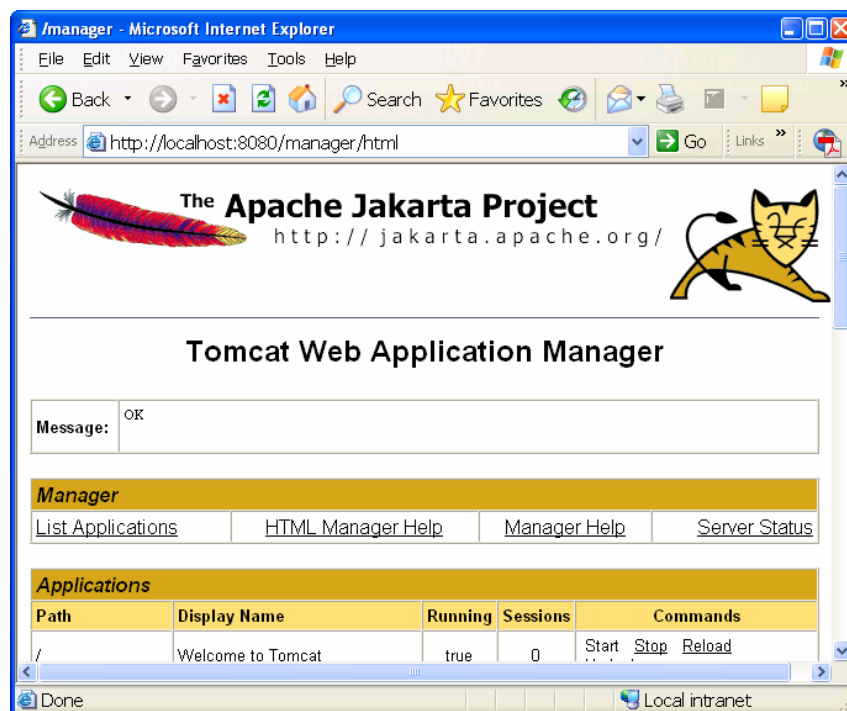
9. インストールが完了しました。



10. Apache Tomcat を開始し、ブラウザで <http://localhost:8080/manager/html> を開きます。インストール中に入力したユーザ名とパスワードを入力してください。（本書では admin と password）



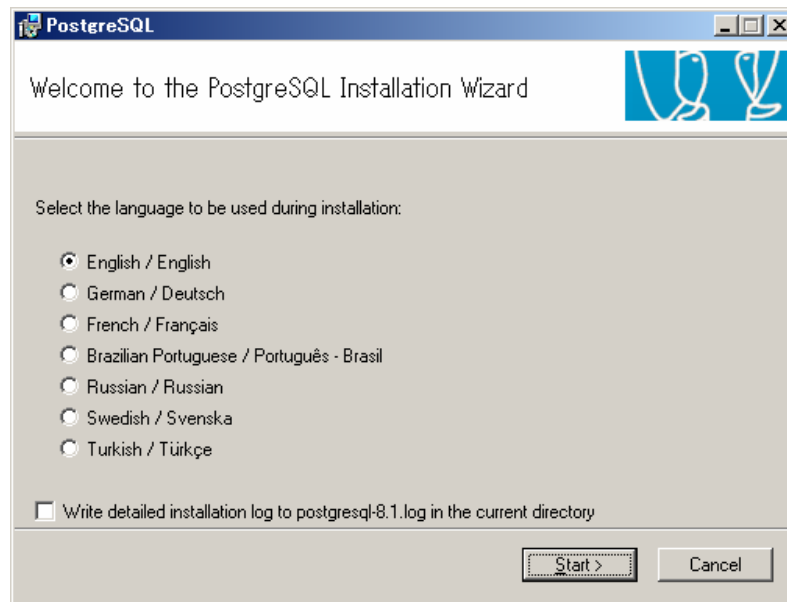
11. 認証終了後、Tomcat の管理ページが表示されます。



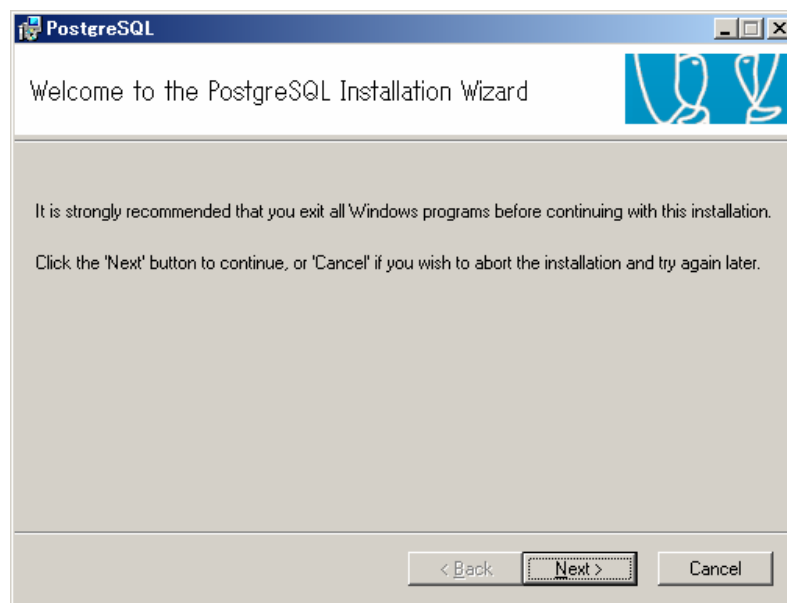
PostgreSQL のインストール

以下のキャプチャ画面にしたがってインストールを進めてください。

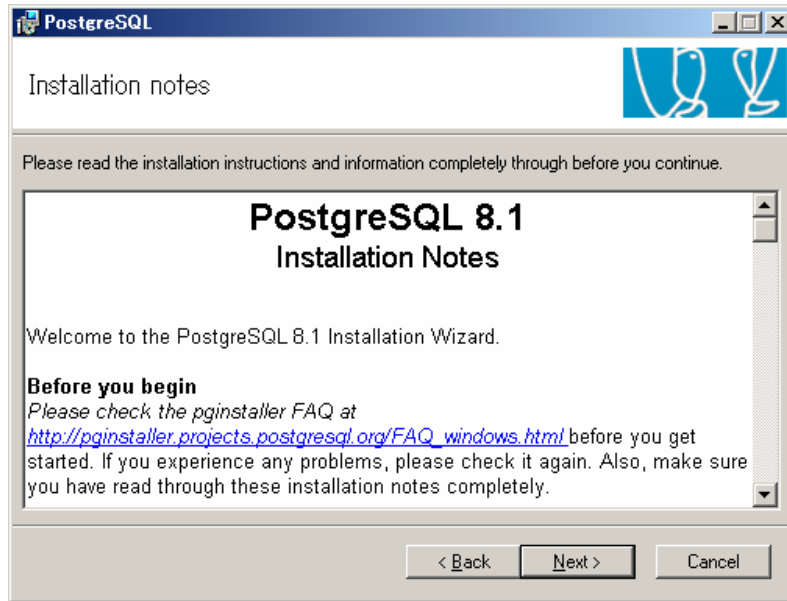
1. インストールファイルをダブルクリックして実行します。(postgresql-8.1.msi).
2. インストール中に使用する言語を選択します。



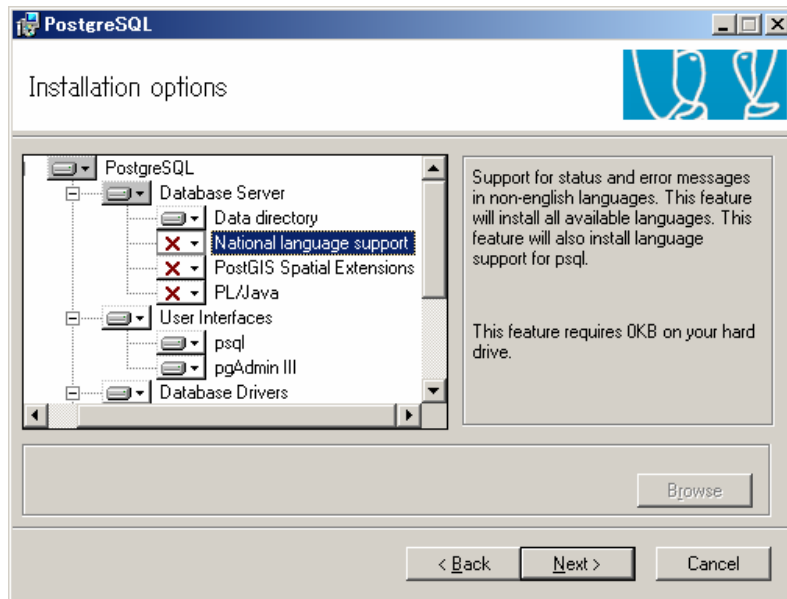
3. インストールが開始します。

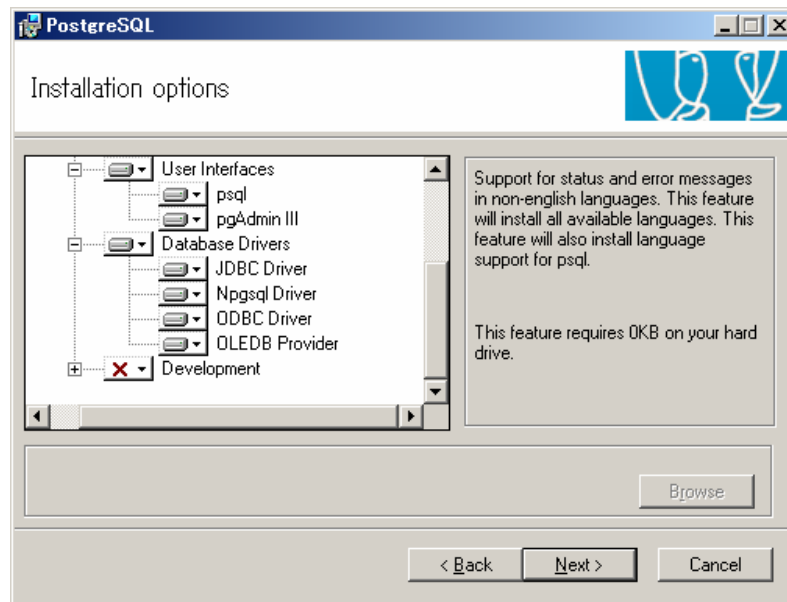


4. Installation notes を読んで、Next ボタンをクリックします。

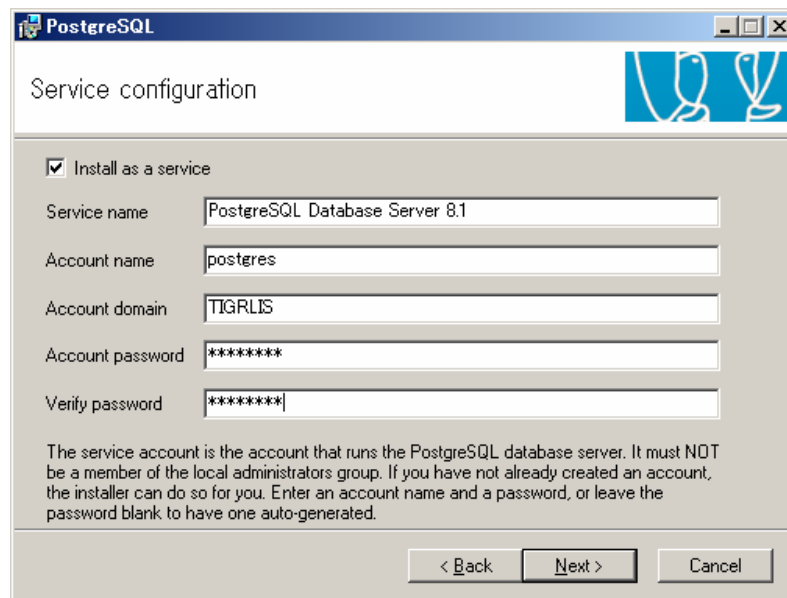


5. インストールのオプションを選択して **Next** をクリックします。必要なければデフォルトのままで **Next** ボタンをクリックします。





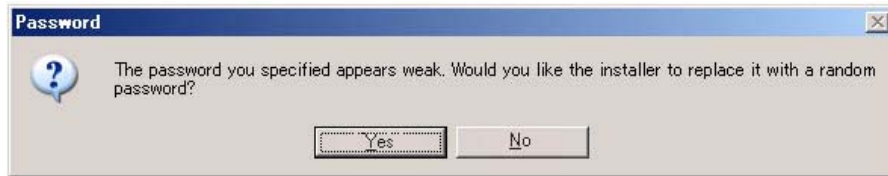
6. サーバの設定を行い、Next ボタンをクリックします。本書では Account Name を postgres、パスワードを password として進めます。



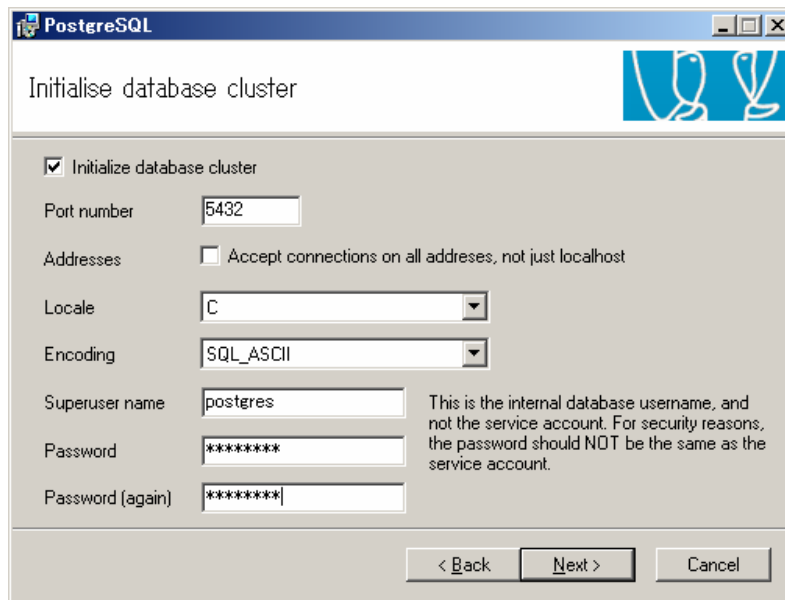
7. Yes をクリックしてアカウントを作成します。



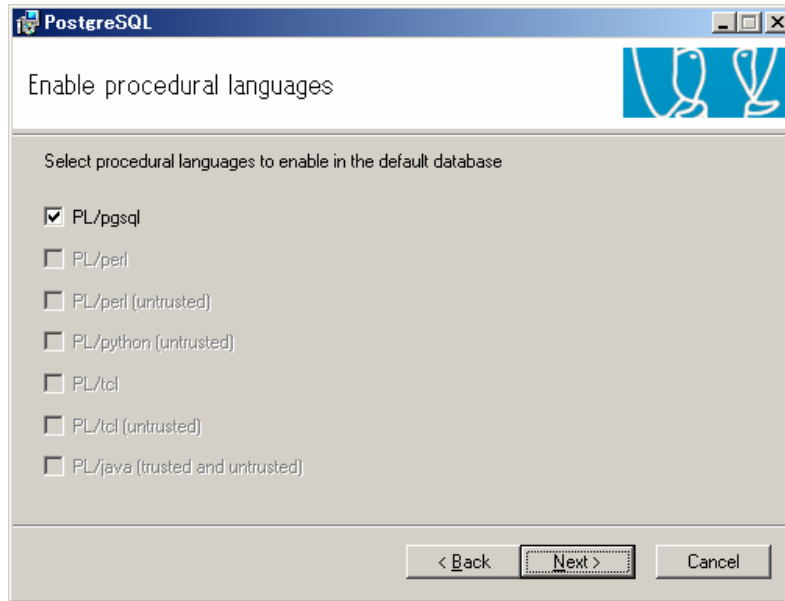
- No を選択して進めます。（本書では便宜上脆弱なパスワードを利用しています。）



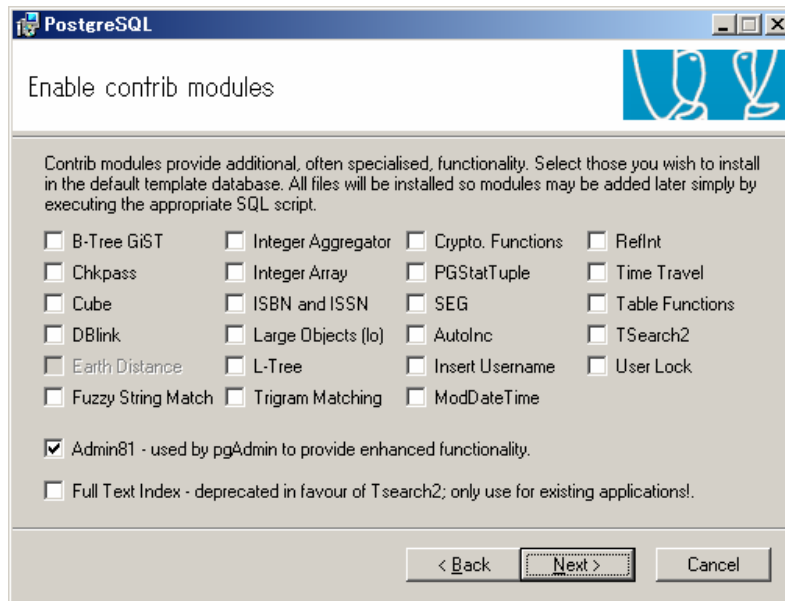
- データベースの初期設定を入力し、Next ボタンをクリックします。
user: postgres
password: password



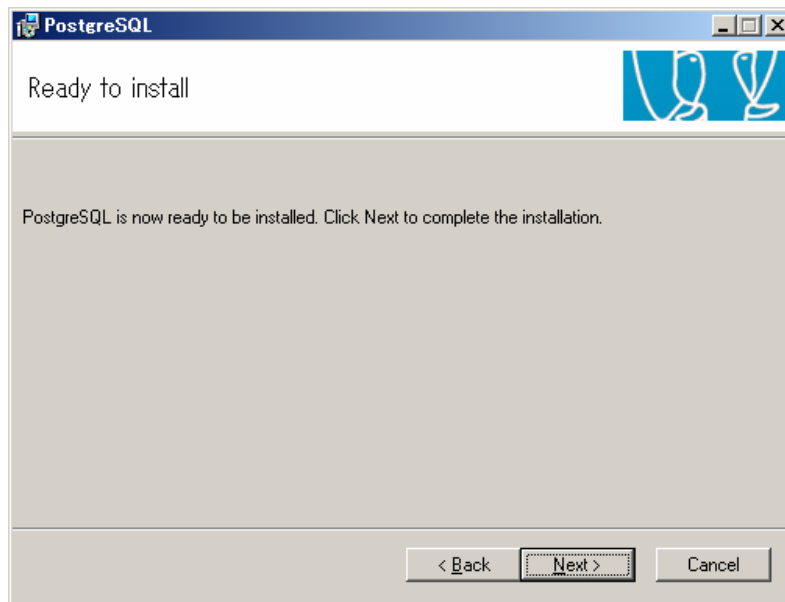
- Procedural languages を選択します。必要なければデフォルトのまま進めてください。



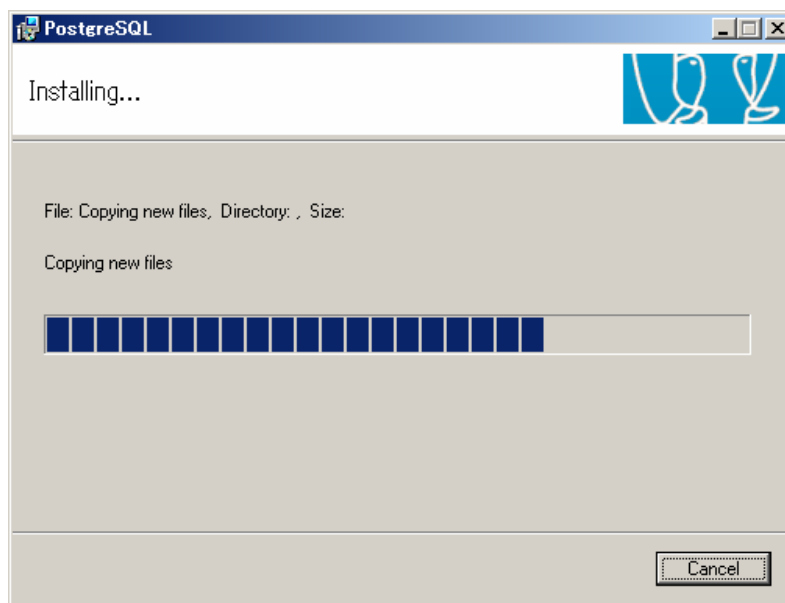
11. Contrib. modules を選択します。必要なければデフォルトのまま進めてください。



12. Next ボタンをクリックしてインストールを進めます。



13. しばらく待ちます。



14. インストールが完了しました。

